

**質問**  
70代女性です。肺がんを治療しました。最近頭痛があり、検査を受けた結果、転移性脳腫瘍の可能性が高いと診断されました。転移性脳腫瘍や、それに対する手術、放射線治療などについて教えてください。

# 転移性脳腫瘍



亘 雄也  
県立中央病院  
脳神経外科医師



**がん何でもクイズ**  
人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、周囲と話し合う取り組みである「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」の愛称はどれですか。  
①人生会議 ②人生計画 ③人生設計  
行こうよ！がん検診

**回答**  
は、他の臓器で

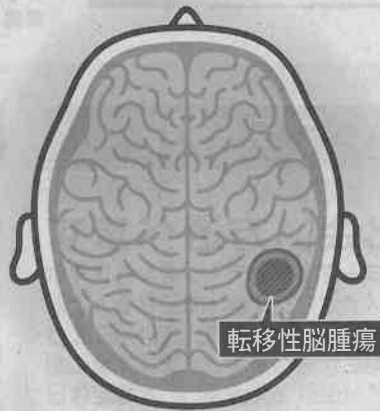
発生したがんなどの腫瘍(原発巣)が、脳に転移してできる脳腫瘍です。統計的には、転移性脳腫瘍の半数は肺がんから発生するとされています。次いで乳がんからの転移が多く、消化器がんや腎細胞がんから転移することもあります。がん腫別では、小細胞肺がんの40%以上、非小細胞肺がんの17~25%の方に転移性脳腫瘍を認めます。

脳腫瘍ができたことで頭蓋内の圧が亢進すると、頭痛や吐き気が出現します。腫瘍ができた部位によっては、腫瘍が脳を圧迫して、麻痺や言語障害などを引き起こすことがあります。さらに悪化すると、意識障害が出現し、命に関わる可能性があります。また、痙攣発作を引き起こすことも

## 半数は肺がんから発生

あります。

治療としては脳腫瘍摘出術、放射線治療、化学療法、緩和的治療などがあります。脳腫瘍摘出術は、一般的には長径が3センチ以上の転移性脳腫瘍や、それ以下でも腫瘍周囲の浮腫が強く症状が出現している場合に考慮します。当院では、手術時にナビゲーションシステム



ム、術中エコー、電気生理学的モニタリングなどを用いて、可能な限り腫瘍を摘出できるように努めています。

放射線治療は多数の転移性脳腫瘍がある場合や、3センチ以下の転移性脳腫瘍の場合に適応となります。当院では、放射線科の医師に相談して治療を行っています。

原発巣の種類によりま

ですが、化学療法の効果が見込める転移性脳腫瘍では、原発巣の主治医と相談し、化学療法の効果を期待するのも選択肢の一つです。

がんに関する質問は  
徳島がん対策センター  
電話 088 (634) 6442  
(平日午前8時半から午後5時まで)へ。

緩和的治療は、前述したような積極的治療介入が全身状態などから困難な場合に、ステロイド治療や抗脳浮腫薬などを用いて、症状を緩和する治療です。転移性脳腫瘍により水頭症(頭の中に髄液という液体が過剰に貯留した状態)を起し、頭痛や意識障害などが出現している場合は、シャント手術やドレーナージ術を行い、髄液の貯留を改善させるための緩和的な手術を行うこともあります。

がんが既往にあり、転移性脳腫瘍と考えられていたものが、手術後の病理検査の結果で別の腫瘍であることもあり得るので、転移性脳腫瘍が疑われた場合は脳神経外科を受診してみてください。

## 摘出や放射線治療 選択肢